



## 熊本市 感染症発生動向調査 速報

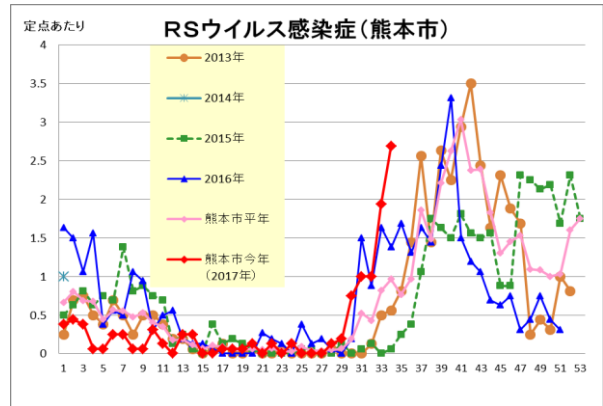
### ●RSウイルス感染症が急増しています。

先週に続きRSウイルスが急増しています。引続き以下の点に気を付けて感染予防に努めましょう。RSウイルスによる呼吸器の感染症で、年齢を問わず、生涯に何度も感染と発病を繰り返します。発症の中心は0～1歳児で、生後1歳までに半数以上が、2歳までにほぼ100%の子どもが少なくとも1回は感染すると言われています。



#### ◆どんな病気？

- ・症状………鼻水、発熱などの軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。多くは軽症ですみますが、低出生体重児、心疾患、肺疾患、免疫不全のある場合は重症化のリスクが高いと言われています。また、初めての感染では症状が重くなりやすいと言われており、特に乳児の早い時期(生後数週間～数ヶ月間)に初めてRSウイルスに感染した場合には、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。
- ・潜伏期間…2～8日程度(典型的には4～6日)
- ・感染経路…感染者の咳やくしゃみのしぶきを吸い込む飛沫感染、ウイルスが付着した手や物(手すり、おもちゃ等)を触ったりなめたりすることによる接触感染があります。
- ・流行期……例年冬季にピークが見られ、夏季は報告数が少ない状態が続いていましたが、近年は7月頃から報告数の増加傾向が見られています。



#### ◆かかったらどうすればいいの？

- ・特効薬はありませんので、治療は基本的には対症療法になります。

#### ◆予防法は？

- ・手洗い、アルコール製剤などで手指を衛生に保ちましょう。子どもたちが日常的に触れるおもちゃや手すりなどは、アルコールや塩素系の消毒剤などでこまめに消毒するようにしましょう。
- ・重症化のリスクの高い乳幼児には、医師の判断のもと、重症化を予防するためにパピズマブ(シナジス)という薬を使用する場合があります。

期 間		平成29年 33週		平成29年 34週	
		8/14～8/20		8/21～8/27(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	4	0.16	4	0.16
RSウイルス感染症	⚠️➡	31	1.94	43	2.69
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	25	1.56	12	0.75
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	10	0.63	18	1.13
感染性胃腸炎	➡	54	3.38	51	3.19
水痘(みずぼうそう)	➡	8	0.50	3	0.19
手足口病	⚠️➡	64	4.00	41	2.56
伝染性紅斑(りんご病)	➡	0	0.00	0	0.00
突発性発しん	➡	8	0.50	10	0.63
百日咳	➡	0	0.00	0	0.00
ヘルパンギーナ	➡	22	1.38	23	1.44
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	5	0.31	6	0.38
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	⚠️➡	9	1.80	17	3.40
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	2	0.40	3	0.60
マイコプラズマ肺炎	➡	1	0.20	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	0	0.00